



御子柴克彦博士のレジオン・ドヌール勲章受章



御子柴先生ご近影

慶應大学医学部 教授（門下生代表）

岡野 栄之

自然科学研究機構生理学研究所 教授（門下生代表）

池中 一裕

御子柴先生は日本生理学会において関東地区の常任幹事やIUPS（国際生理学会）分科会委員長などを務められ、生理学の発展に寄与されて来られました。このたび、これまでの文化・科学における功績、および日仏間をふくめた国際的な文化・科学の交流における御貢献が認められ、フランス共和国政府よりフランスでは最高位の勲章であるレジオンドヌール勲章シュヴァリエに叙されました。

同勲章は、日本人では、黒澤明、大江健三郎、平山郁夫、小澤征爾、政治家では伊藤博文、中曾根康弘、科学者では数学者の広中平祐先生、物理学者の有馬朗人先生など錚々たる方々が受章されておられます。

御子柴先生は1969年に慶應義塾大学医学部をご卒業後、同年医学部生理学教室に入室され、1973年医学博士号を取得されました。同大学で専任講師を2年間務められた後に渡仏され、パスツール研究所で1976年から77年まで、ジャン＝ピエール・シャンジュール教授の下、運動失調を起こす動物に欠損しているP400というタンパク質の性質を研究されました。帰国後もP400の研究を続け

られ、このタンパク質は細胞が外界からの刺激に反応する際に重要な役割を果たすイノシトール-1,4,5-三リン酸（IP₃）受容体であること、またIP₃受容体が細胞内でカルシウムイオンを放出するチャンネルそのものであることを明らかにされました。さらに、この分子が生体の発達や機能維持など様々な局面において重要な役割を果たすこと、この分子の異常がさまざまな病気を引き起こすことなども発見されました。

1982年、慶應義塾大学助教授ご就任を経て、1985年に大阪大学蛋白質研究所教授、1992年に東京大学医科学研究所教授を歴任され、同年に理化学研究所主任研究員にも就任されました。これら一連の卓越した研究業績によって、神経科学と分子生物学の分野における日本の第一人者となられたほか、世界の科学界でも認められ、慶應医学賞やメダイユ・デュ・コレージュ・ド・フランス、紫綬褒章、日本学士院賞など、多数の受賞歴があります。現在も理化学研究所脳科学総合研究センターで精力的に研究に取り組んでおられます。

門下生としましても今回の受賞に一同心からお慶び申し上げます。